

1月

ENJOY LIFE vol. 141

こんにちは。エンジョイライフです。

あともう少しで2025年も終わりになりますね。

新年の1月はたくさんの行事がありますが、今回は一年の始まりに多くの人が訪れる神社、お寺の初詣について、お伝えしたいと思います。

初詣とは、昨年一年を無事に過ごせたことへの感謝を捧げ、新しい年の平和と安全、そして自身の目標達成を祈願する行事で、「初参り」と呼ぶこともあります。

この「感謝と祈り」の清らかな心さえあれば、参拝先が神社であってもお寺であっても、その思いは必ず届きます。

神社は「神道(しんとう)」の施設です。

神道は、日本の風土や自然の中で生まれた固有の信仰で、「神様(かみさま)」をお祀りしています。

神社の入り口「鳥居」の前では衣服を整えて軽く一礼をします。

これは「これから神様の領域にお邪魔します」という気持ちを表すものです。

右側か左側から入り、中央は避けるのが一般的です。中央は神様の通り道と考えられているためです。



手水舎(ちょうずや)で清める。

手順は

1. 右手でひしゃくを取り、左手を清める。
2. 左手に持ち替え、右手を清める。
3. 左手に水をため、口をすぐす。
4. もう一度左手を清める。
5. ひしゃくの柄を最後に流して戻す。



(※コロナ禍以降、柄杓が撤去され、流水式になっている場合も多いです。その場合はその施設の案内に従ってください)

お賽銭と拝礼。

1. 拝殿の前に進み、軽く一礼します。
2. お賽銭を、そつとお賽銭箱に入れます。
3. 鈴がある場合は、鈴を鳴らして神様をお呼びします。
4. 「二拝二拍手一拝(にはい にはくしう いっぽい)」を行います。
5. 軽く一礼して、拜殿を下ります。



(※出雲大社など一部の神社では「二拝四拍手一拝」など独自の作法がある場合もあります)

参拝後の帰り方

境内を出て、最後の「鳥居」をくぐり終えたら、向き直って拜殿(神様)の方へ「お邪魔しました」という感謝を込めて、最後にもう一度、深く一礼します。

お寺は「仏教(ぶつこう)」の施設です。

仏教は、インドで生まれた「お釈迦様(おしゃかさま)」を開祖とする教えで、

中国や朝鮮半島を経由して日本に伝わりました。

お寺には、「仏様(ほとけさま)」が祀られています。



お寺の入口「山門」ではくぐる前に、衣服を整えて一礼します。

このとき、山門に「敷居(しきい)」がある場合は、敷居を踏まないようにまたいで入るのがマナーです。

敷居は「頭」を意味するとも言われ、踏みつけるのは失礼にあたるとされています。

手水舎(ちょうずや)で清める。

手順は基本神社と共通です。

お賽銭と拝礼。

1. 本堂の前に進み、深く一礼(合掌)します。
2. お賽銭を、そつとお賽銭箱に入れます。
3. 鶴口(わにぐち・銅鑼)がある場合は、紐を振って鳴らします。
4. 胸の前で静かに「合掌(がっしょう)」し、目を閉じます。
5. お寺では、柏手(かしわ)は絶対に打ちません。
柏手は神様をお呼びするためのものであり、仏様の前で行うのは大変失礼にあたります。
6. 心の中で感謝と祈願を伝えます。(宗派の「南無〇〇」などを唱えても構いません)
7. 祈願が終わったら、合掌したまま深く一礼します。
8. 最後に合掌を解き、深く一礼して本堂を下ります。



参拝後の帰り方

境内を出て、「山門」をくぐり終えたら、向き直って本堂(仏様)の方へ感謝を込めて、最後に合掌し一礼します。

初詣は、家族の健康や一年の幸せを祈る大切な行事です。神社とお寺、それぞれの違いを理解し、正しい作法で参拝することで、より心が整い、気持ちよく一年をスタートできるでしょう。

今年ありがとうございました。来年もどうぞよろしくおねがいします。

株式会社キコークリエイト